

- 2 新年のごあいさつ
- 4 **特集** challenger
「2023年、「挑戦」の一年に」
- 6 田村市市民の歌～田村のうた～完成♪
- 8 2023年、夢に向かってジャンプ!
- 15 地域おこし協力隊奮闘記
- 16 たむら支援学校だより
- 17 海を越えて 英語指導助手ペンリレー
- 18 ほっとニュース
- 24 ほけんだより
- 27 船高便り
- 28 暮らしの情報案内板
- 38 各施設の催しなど

市の募集・申請に関する
各記事の共通事項

☎問い合わせ ☑申し込み先
市への申込・書類提出について明記してい
ないものは、期間中の土・日・祝日を除く午
前8時30分から午後5時15分まで

2023年新春
＼お年玉プレゼント！

【アンケートに答えると抽選で3人に当たる！】
佐久間拓斗選手のサイン入りバット、バッティ
ンググローブ、ボールを各1名様にプレゼント！

たむら市政だよりアンケート

- ①～④の内容に答えてください
- ① 2023年の目標（挑戦したいこと）を教えてください
 - ② 今月号でよかった内容を教えてください
 - ③ 取り上げてほしい内容や企画を教えてください
 - ④ 広報に関するご意見などをお聞かせください

＜応募方法＞

応募専用フォームに、アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレスを入力してご応募ください。

【1月31日（火）締切】

応募専用フォーム▶▶▶



Challenger 2023年、「挑戦」の一年に

2023年、1人目のChallengerは、佐久間拓斗選手（昨年の1月号に登場）。2021年プロ野球ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークス育成8位指名を受け、2022年1月から球団の本拠地がある福岡の地に渡り、プロ野球選手としての道を歩み始めました。球児であれば誰もが憧れるプロ野球選手という夢を現実にし、この1年「挑戦」を続けてきました。入団から丸1年、佐久間選手が思うことは一。



Profile
●生まれ/2003年7月17日、船高町
●サイズ・投打/183㍓、98㍓、右投右打
●ポジション/一塁手・捕手・三塁手
●球歴/船引スポーツ少年団野球クラブ→船引中→田村高校→福岡ソフトバンクホークス（昨季は3軍）

入団一年目を振り返って――
プロになり、環境が大きく変化した、「挑戦」の一年になりました。正直、きつかったですね。何よりも「結果」が、一番の世界。練習もそうですが、精神的にも辛い一年になりました。昨シーズ（2022年）は、試合数76、打席数207、打率2割1分1厘（安打41、本塁打2）。ヒットはそれなりに打てましたが、自分の魅力である「長打」でチームに貢献できず、悔しい結果になりました。一年目になりました。

て初めて打ったホームランは素直にうれしかったです。チームの紅白戦で一軍投手から打つことができ、自分でもプロの世界で打てるんだということが実感でき自信になりました。
また、憧れていた一軍選手とも一緒に練習する機会があります。特に「とりあえず練習。元気に」と声をかけてもらったことが印象に残っています。

プロになり、技術面もそうですが、なにより「気持ち」が大きく成長したと感じます。「なにくそっ！」という気持ちが出てきました。この世界は、自分から

◀昨年10月の韓国遠征、笹川吉康選手と



- 1_ 田村富士ロードレース「地元の後輩たち」
- 2_ 株式会社セキノ興産「実業団での大会の様子」
- 3_ ふくしま駅伝「家族や親戚の応援団に笑みがこぼれる」
- 4_ 田村富士ロードレース「小学生ランナーと並走」
- 5_ 箱根駅伝「大学2年時から3年連続出場、5区の山登り」

1_ 田村富士ロードレース「地元の後輩たち」
2_ 株式会社セキノ興産「実業団での大会の様子」
3_ ふくしま駅伝「家族や親戚の応援団に笑みがこぼれる」
4_ 田村富士ロードレース「小学生ランナーと並走」
5_ 箱根駅伝「大学2年時から3年連続出場、5区の山登り」

ていただいたことです。大学1年の記録が伸び悩んでいた時期でしたが、この言葉があって箱根駅伝を本気で目指すと気持ちを切り替えて練習に励むことができました。実際に、2019年の第95回大会では戸澤さんとタスキをつなぐことができ、小学生の時から一緒に走ってきたので、とても感慨深い気持ちになりました。最終的に、実業団でも走ることができたのは箱根駅伝の成績があったからだと思うので、とても感謝しています。

また、実業団へ進むか迷っていた時には、幼馴染の渡辺峻広さんに「やってみたらいいじゃん」と背中を押してもらい、もう一つ上のステージに進む決意ができました。今の自分がいるのは目標となる先輩や幼馴染、これまでサポートしてくれた方々がいてくれたからだと実感しています。

これからは社会人として新たな人生をスタートさせます。これまで陸上を続けてきたことで多少の辛いことでは負けなくなったと思うので、これまでの経験を糧に社会人として「挑戦」し続けていきたいと思っています。

2022年11月20日のふくしま駅伝をラストランに、単田章宏さんが陸上を引退しました。走ることの楽しさを学んだ小学時代、走り続けることの厳しさを知った中学・高校時代を経て、大学時代は憧れの箱根駅伝の「山登り」で有名な5区に3年連続で挑み、実業団では引退する直近の大会でも自己ベストを出すなど、最後まで自分の記録に挑戦し続けました。引退し、19年間という競技人生を終えた今の心境を伺いました。



やらないで後悔するより、やって後悔した方がいい。
Profile
●生まれ/1997年4月17日、常葉町
●競技歴/関本小（ときわランナーズ所属）→常葉中（特設陸上部、ふくしま駅伝田村市チーム）→田村高校→国士舘大学→(株)セキノ興産→ふくしま駅伝（2022年11月20日）をラストランに陸上競技を引退
●好きな食べ物/ラーメン
●座右の銘/何事も挑戦

「挑戦」し続けた陸上人生

大学時代からのケガもあり社業に専念すると決め、昨年ふくしま駅伝を最後に陸上を引退しました。走り終えてみると、もっとこうしておけば良かったとか悔やむことがあるかなと思ったのですが、スッキリと終わって、良い陸上人生だったと思っています。ふくしま駅伝をラストランにすることは、引退を考える前から決めていたことでした。ずっと応援してくれていた両親や親戚、先生やふくしま駅伝田村市代表のスタッフの方々も福島ですし、地元で練習していた時は「頑張ってね!」と知らない人にも声援をもらっていて、今の自分いるのは本当に地元の人たちのおかげだとしみじみ思いながら競技を続けていたので、育ててもらった地で自分の最後の走りを見てもらいたいと思走らせてもらいました。

陸上は、兄姉の影響で小学1年生の時にときわランナーズで走り始め、実業団まで19年間続けてきました。その中で特にターニングポイントになった出来事は、大学時代に同じ常葉町出身で1学年上の戸澤奨さんから「単田とタスキをつなぎたい」と言っ

